

[各出局教育最前線]

全学共通教育センターの教育最前線

大野 研（三重大学全学共通教育センター）

三重大学の共通教育では、令和5年度から新カリキュラムがスタートしている。新カリキュラムでは、「キャリア教育入門」、「データサイエンスⅠ」、「データサイエンスⅡ」が、全学部・全学科で必修となったことが大きな変化である。

「キャリア教育入門」では、狭義のキャリア就職のための準備をする—という意味を超え、学生が、自身の過去を振り返り、これからの人生の中で「どのように働き」、「どのように生活するか」を考え、自分らしく生きていくために必要な知識や考え方を身に付けることを教育目標としている。その結果、学生たちの人生がより良いものになることを期待している。

「データサイエンスⅠ」、「データサイエンスⅡ」では、急速に否応なく進展する大量のデータにさらされるデジタル社会の中で、人間中心の適切な判断を行い、自らの意志で AI 等の恩恵を享受し、これを活用できるようになることを教育目標としている。三重大学の共通教育では、現代の教養と言われるデータサイエンス・AI 教育に力を注いでおり、共通教育の段階で、全学部に対して、4 単位必修としている。

また新カリキュラムでは、新たに「副専攻制度」を導入した。三重大学における「副専攻」とは、学生が専門学部で身に付ける「主専攻」とは別に、特定のテーマについてある程度深い知識を身に付けたことを、大学が認定する制度である。認定される副専攻分野は、次の6分野である。(1) 歴史・文化分野、(2) 環境・科学分野、(3) 健康・医療・福祉分野、(4) 教育・公共分野、(5) 社会・経済分野、(6) 国際・外国語分野。「主専攻」が理系の学生には、文系の「副専攻科目」を履修することを推奨し、「主専攻」が文系の学生には、理系の「副専攻科目」履修することを推奨している。このことにより、いわゆる専門バカに陥ることなく、バランスの取れた価値観を持った学生の育成、いわゆる文理融合教育の実現を目指している。

新カリキュラムのもう一つの大きな変化は、従来必修科目であった未習外国語が選択科目となったことである。三重大学では、未習外国語として、近隣の大学では最多の7言語、「ドイツ語」、「フランス語」、「中国語」、「スペイン語」、「ポルトガル語」、「ロシア語」、「朝鮮・韓国語」を開講している。未習外国語が選択科目となったことは、語学に興味がある学生には残念に感じられる可能性もあるが、反面、多種類の外国語を学ぶことが可能になった。また、必須ではなくなったことで、一般市民がこれらの言語を履修できるチャンスも広がり、社会のグローバル化に貢献できるようになった。

共通教育ではその他にも、高校生や一般市民が三重大学生と一緒に受講できる科目の拡充を目指している。高校や授業の終了後に受講可能であったり、夏休みの間に受講可能であったりする授業の増加を目指している。三重大学生、高校生、一般社会人が共に学ぶことにより、お互いに刺激を与え、各々の成長につながることを期待している。また三重県内の高校生の場合、これらの科目で試験に合格すると、三重大学入学後に卒業単位として認められることになっている。

以上が近年の共通教育センターの動きである。変化の激しい現代社会では、学生に教養として身に付けて欲しいことも刻々と変化している。共通教育では、「現代の学生の教養」を教育し続けることができるように、普遍的な教養を大事にしつつ、常に変化を続けていくことが重要であると心に刻んでいる。